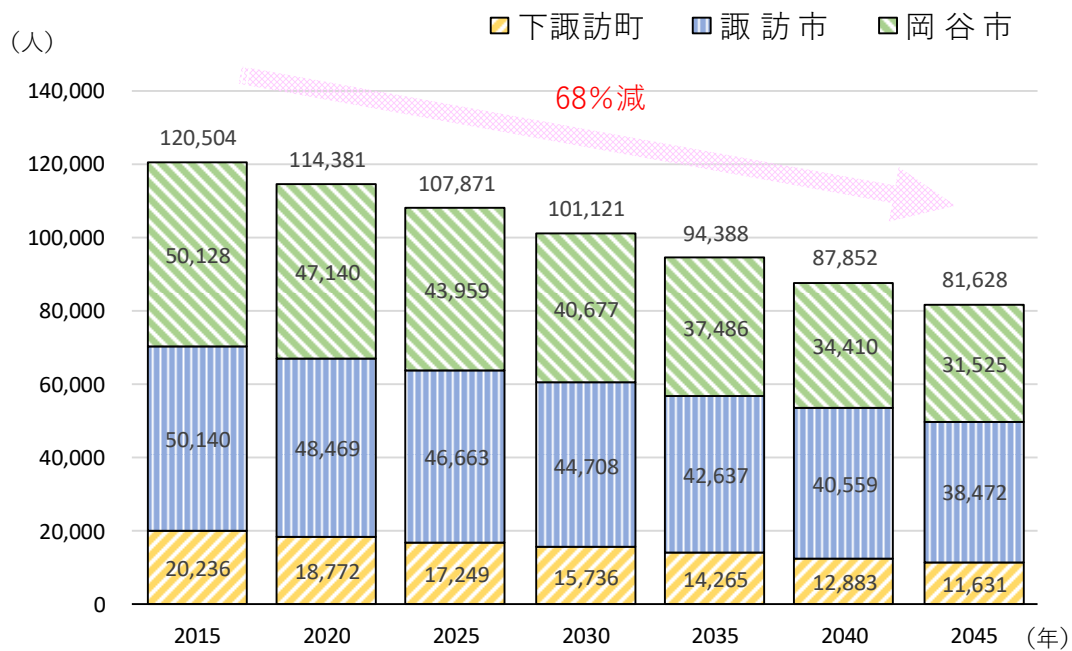


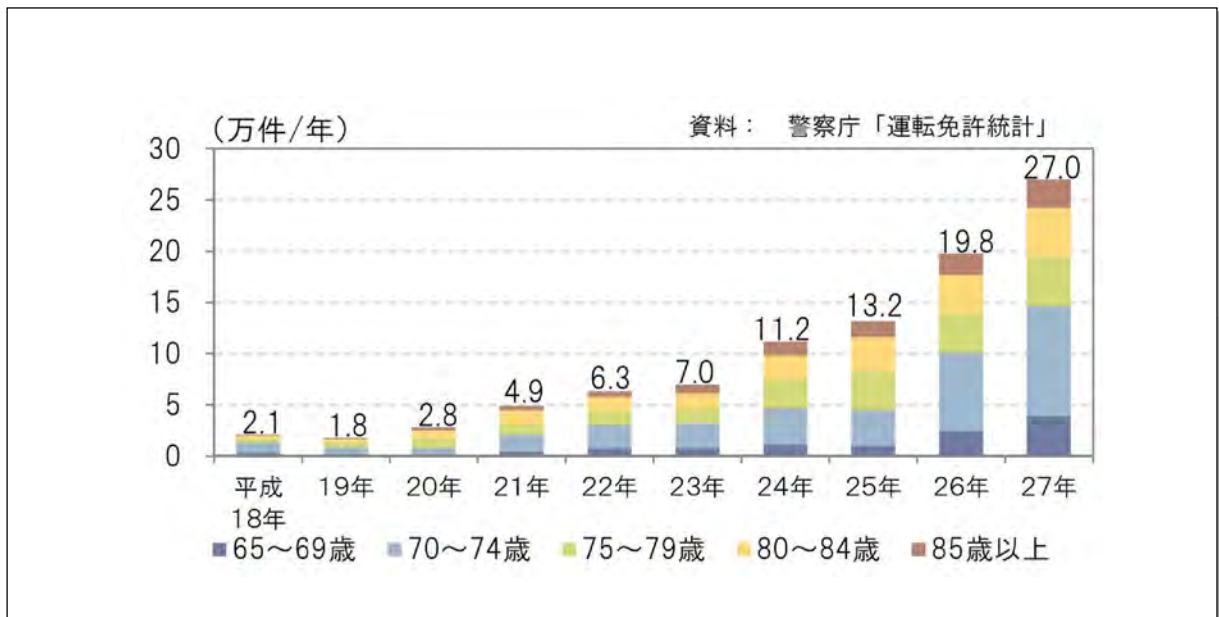
◆諏訪湖周の将来推計人口

自治体	総人口（人）						
	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
岡 谷 市	50,128	47,140	43,959	40,677	37,486	34,410	31,525
諏 訪 市	50,140	48,469	46,663	44,708	42,637	40,559	38,472
下諏訪町	20,236	18,772	17,249	15,736	14,265	12,883	11,631
計	120,504	114,381	107,871	101,121	94,388	87,852	81,628
	100%	95%	90%	84%	78%	73%	68%



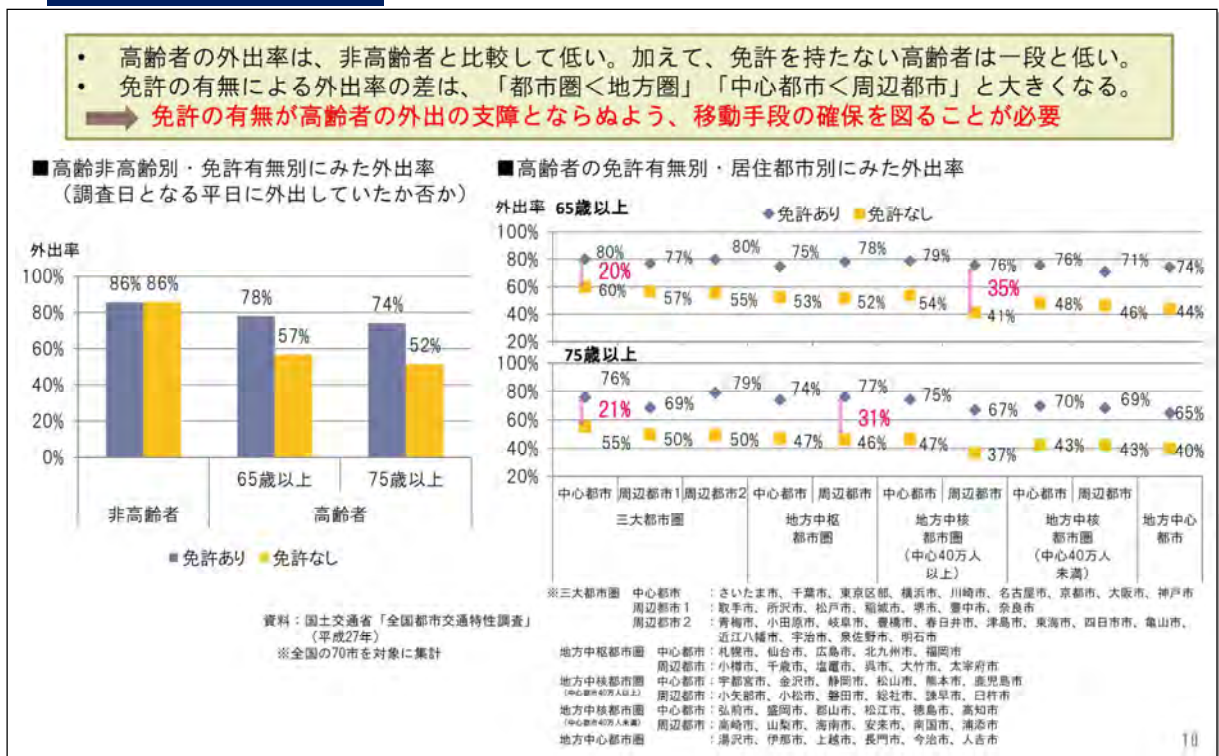
【出典】国立社会保障人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」

◆65 歳以上の方の運転免許証の自主返納件数の推移



【出典】国土交通省「高齢者の移動手段の確保に関する検討会」
第1回配布資料「高齢者の生活・外出特性について」p.4 抜粋

◆高齢者の外出状況



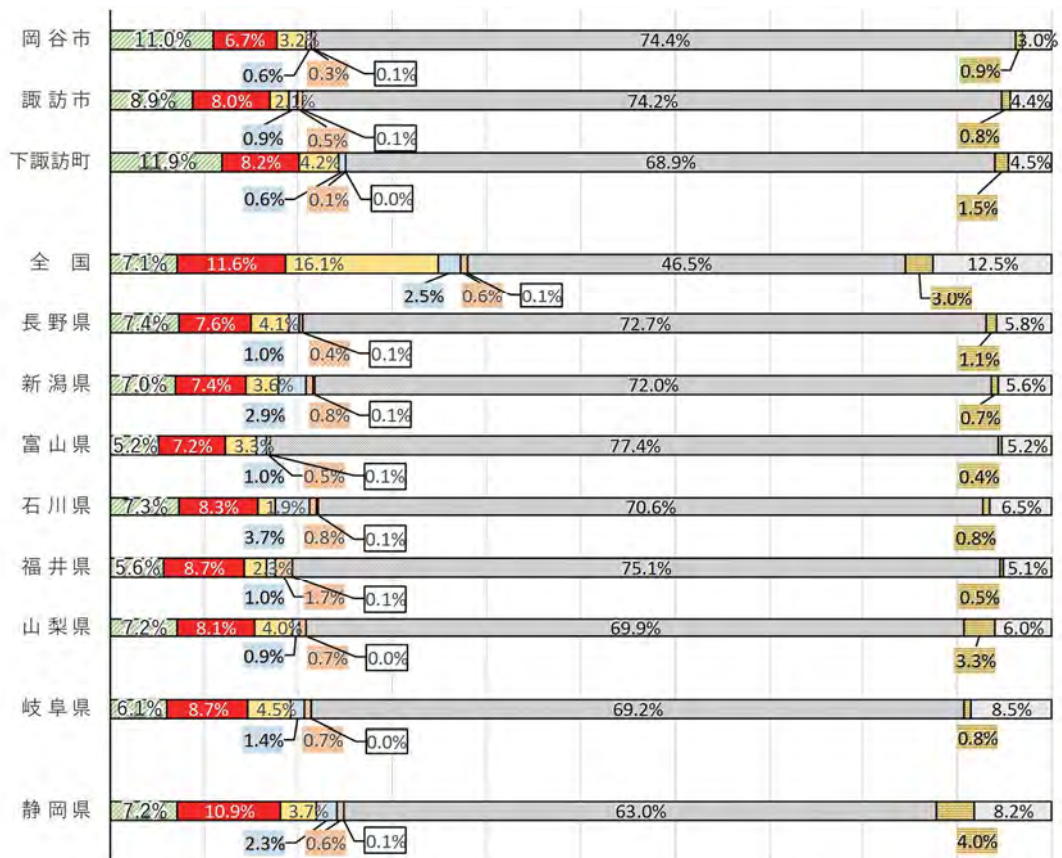
【出典】国土交通省「高齢者の移動手段の確保に関する検討会」
第1回配布資料「高齢者の生活・外出特性について」p.10 抜粋

◆通勤・通学における交通分担率

自治体	通勤・通学における交通手段								
	上段: 分担率(%)					下段: 人口(人)			
	徒歩	自転車	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	ハイヤー・タクシー	自家用車	オートバイ	その他
岡谷市	11.0%	6.7%	3.2%	0.6%	0.3%	0.1%	74.4%	0.9%	3.0%
	2,659	1,624	770	144	63	13	18,052	212	733
諏訪市	8.9%	8.0%	2.1%	0.9%	0.5%	0.1%	74.2%	0.8%	4.4%
	2,148	1,948	502	222	128	22	17,977	201	1,075
下諏訪町	11.9%	8.2%	4.2%	0.6%	0.1%	0.0%	68.9%	1.5%	4.5%
	1,158	798	413	60	12	2	6,705	150	440
全国	7.1%	11.6%	16.1%	2.5%	0.6%	0.1%	46.5%	3.0%	12.5%
	4,019,123	6,550,589	9,143,384	1,418,271	339,872	45,753	26,348,055	1,709,460	7,091,956
長野県	7.4%	7.6%	4.1%	1.0%	0.4%	0.1%	72.7%	1.1%	5.8%
	72,919	74,554	39,973	10,268	3,634	446	715,924	10,503	56,811
新潟県	7.0%	7.4%	3.6%	2.9%	0.8%	0.1%	72.0%	0.7%	5.6%
	76,601	81,914	39,142	32,189	8,467	737	794,000	8,121	61,608
富山県	5.2%	7.2%	3.3%	1.0%	0.5%	0.1%	77.4%	0.4%	5.2%
	27,333	38,012	17,305	5,146	2,427	277	410,588	1,975	27,560
石川県	7.3%	8.3%	1.9%	3.7%	0.8%	0.1%	70.6%	0.8%	6.5%
	40,681	46,411	10,695	20,434	4,258	509	393,183	4,647	36,069
福井県	5.6%	8.7%	2.3%	1.0%	1.7%	0.1%	75.1%	0.5%	5.1%
	21,878	33,667	8,853	3,873	6,754	281	291,772	1,736	19,721
山梨県	7.2%	8.1%	4.0%	0.9%	0.7%	0.0%	69.9%	3.3%	6.0%
	27,779	31,386	15,396	3,349	2,542	142	270,132	12,757	23,273
岐阜県	6.1%	8.7%	4.5%	1.4%	0.7%	0.0%	69.2%	0.8%	8.5%
	59,010	84,169	44,053	13,803	7,062	369	673,714	7,885	82,898
静岡県	7.2%	10.9%	3.7%	2.3%	0.6%	0.1%	63.0%	4.0%	8.2%
	129,161	195,436	66,853	41,077	11,442	977	1,128,201	70,939	146,364

交通手段のグリーン度

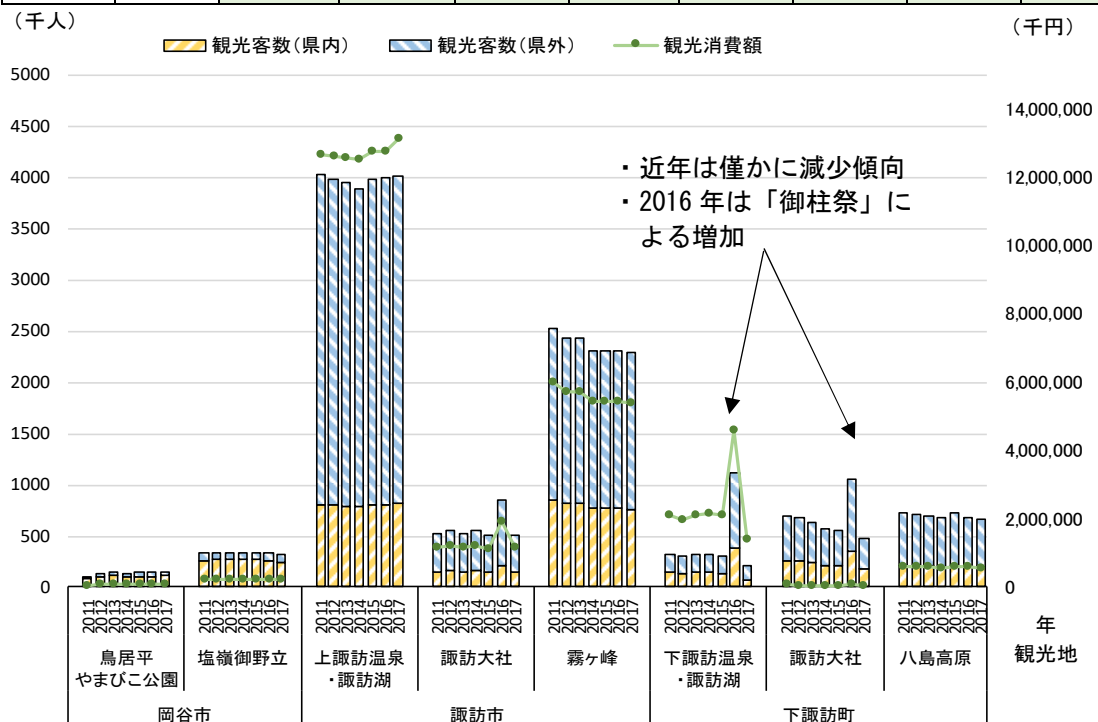
凡例	徒歩	自転車	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	ハイヤー・タクシー	自家用車	オートバイ	その他
----	----	-----	-------	------	-----------	-----------	------	-------	-----



【出典】総務省統計局「統計でみる都道府県・市区町村のすがた（2018）」
（社会・人口統計体系 市区町村データ 基礎データ）

◆諏訪湖周地域の観光地利用者延数と観光消費額

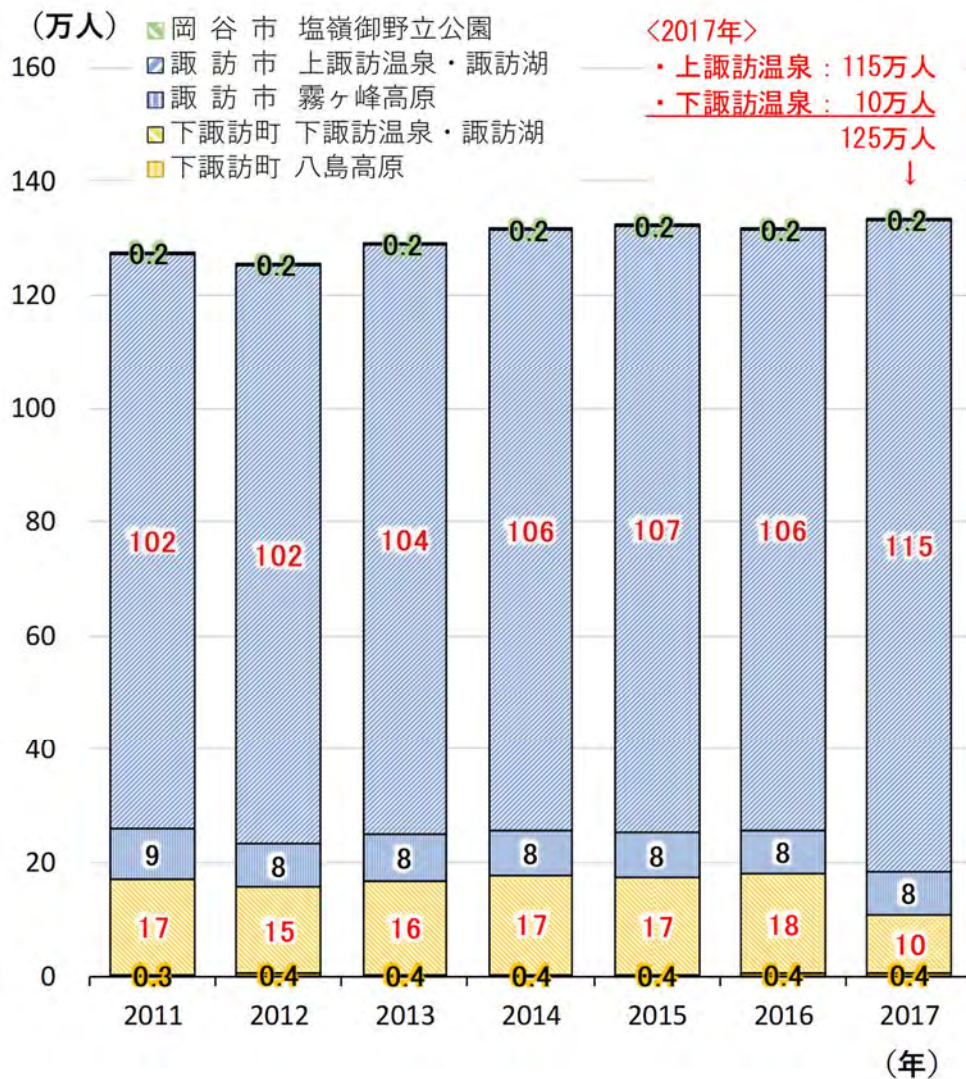
自治体	観光地名	観光客数/消費額 (千人)/(千円)	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
岡谷市	鳥居平 やまびこ公園	観光客数 県内	81.2	104.1	113.6	106.1	107.8	108.9	113.2
		観光客数 県外	19.7	25.6	27.8	26.1	34.3	34.8	34.6
		観光客総数	100.9	129.7	141.4	132.2	142.1	143.7	147.8
		観光消費額	59,460	76,740	83,760	78,240	84,180	85,500	87,960
	塩嶺御野立	観光客数 県内	261.8	266.2	266.0	265.8	273.1	264.5	245.0
		観光客数 県外	68.7	67.4	67.4	67.7	67.3	67.9	69.4
		観光客総数	330.5	333.6	333.4	333.5	340.4	332.4	314.4
		観光消費額	238,190	240,360	240,220	240,290	245,120	239,520	226,920
諏訪市	上諏訪温泉 ・諏訪湖	観光客数 県内	811.8	807.6	796.7	787.2	805.3	809.6	813.3
		観光客数 県外	3,213.2	3,179.5	3,148.2	3,099.2	3,173.9	3,178.0	3,195.4
		観光客総数	4,025.0	3,987.1	3,944.9	3,886.4	3,979.2	3,987.6	4,008.7
		観光消費額	12,685,590	12,623,195	12,593,310	12,531,755	12,775,590	12,748,015	13,121,530
	諏訪大社	観光客数 県内	150.4	160.0	152.9	160.1	142.6	208.8	144.2
		観光客数 県外	368.9	390.0	365.6	389.3	360.2	643.4	370.1
		観光客総数	519.3	550.0	518.5	549.4	502.8	852.2	514.3
		観光消費額	1,168,425	1,237,500	1,166,625	1,236,150	1,131,300	1,917,450	1,157,175
	霧ヶ峰	観光客数 県内	848.4	816.3	813.2	770.3	771.5	769.4	763.0
		観光客数 県外	1,679.0	1,616.4	1,611.2	1,530.2	1,534.3	1,530.7	1,520.2
		観光客総数	2,527.4	2,432.7	2,424.4	2,300.5	2,305.8	2,300.1	2,283.2
		観光消費額	5,983,994	5,739,159	5,731,696	5,437,753	5,454,774	5,441,277	5,398,136
下諏訪町	下諏訪温泉 ・諏訪湖	観光客数 県内	146.1	136.1	141.0	140.8	138.6	384.4	73.3
		観光客数 県外	180.0	172.3	172.6	171.8	164.1	735.4	141.1
		観光客総数	326.1	308.4	313.6	312.6	302.7	1,119.8	214.4
		観光消費額	2,133,531	1,981,769	2,092,539	2,135,969	2,091,772	4,612,360	1,383,262
	諏訪大社	観光客数 県内	257.2	250.2	238.5	214.6	203.8	355.4	177.3
		観光客数 県外	445.9	431.0	401.7	353.5	348.4	697.4	293.6
		観光客総数	703.1	681.2	640.2	568.1	552.2	1,052.8	470.9
		観光消費額	70,310	68,120	64,020	56,810	55,220	105,280	47,090
	八島高原	観光客数 県内	218.4	213.8	206.8	201.8	217.2	204.4	197.8
		観光客数 県外	513.4	502.3	486.1	474.1	512.8	481.1	464.2
		観光客総数	731.8	716.1	692.9	675.9	730.0	685.5	662.0
		観光消費額	622,150	612,591	591,599	577,579	622,897	588,061	568,466



【出典】長野県観光部山岳高原観光課「観光地利用者統計調査結果(平成 23～29 年)」

◆諏訪湖周地域の観光地宿泊者数

市町村名	宿泊観光地	宿泊者数の推移（百人）						
		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
岡谷市	塩嶺御野立公園	18	18	18	18	18	18	18
諏訪市	上諏訪温泉・諏訪湖	10,152	10,216	10,398	10,594	10,692	10,562	11,474
	霧ヶ峰高原	884	758	810	764	786	784	764
下諏訪町	下諏訪温泉・諏訪湖	1,665	1,517	1,641	1,745	1,693	1,750	1,039
	八島高原	34	42	38	39	39	44	43
合計		14,764	14,563	14,918	15,174	15,243	15,174	15,355



【出典】長野県観光部山岳高原観光課「観光地利用者統計調査結果(平成 23～29 年)」

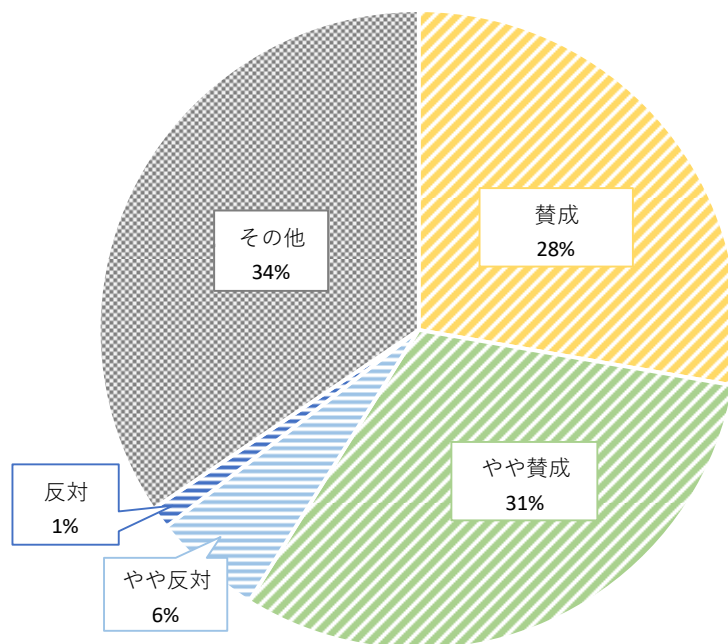
(考察)

- ・ 延宿泊者数の 9 割は温泉施設であり、僅かですが増加傾向です。

◆パブリックコメントの集計結果（H28 年実施） ～ 諏訪湖周サイクリングロード基本計画 ～

＜賛否数の集計＞

・賛成	11 件
・やや賛成	12 件
・やや反対	10 件
・反対	6 件
・その他	6 件



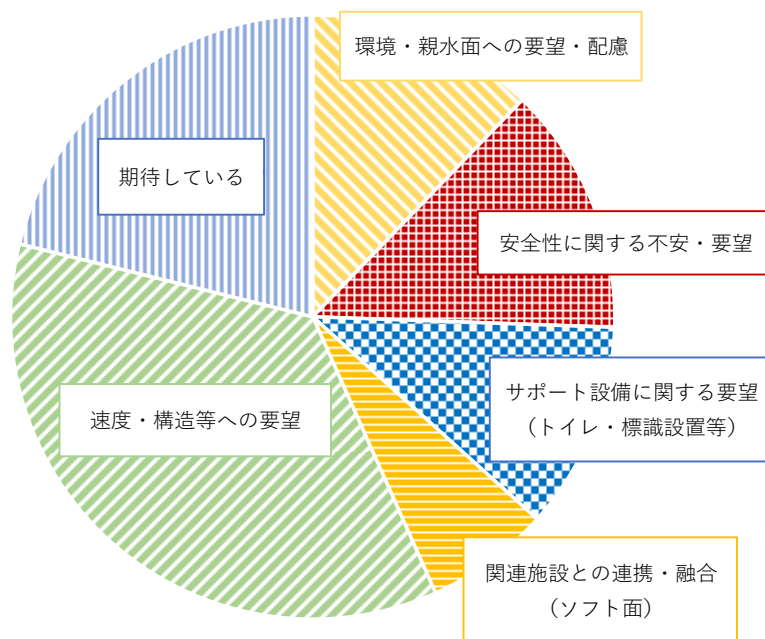
（考察）

賛成が 6 割弱でした。否定的な意見は少数派でしたが、要望や検討課題など今後参考になるような意見も見受けられます。

はっきり賛成との明記はなくても、楽しみにしている人や将来の諏訪湖周の発展等を期待する意見については「その他」の項目で集計しているので、全体的には概ね好意的な評価だと思われます。

＜計画に対する意見の傾向＞

・環境・親水面への要望・配慮	11 件
・安全性に関する不安・要望	12 件
・サポート設備に関する要望（トイレ・標識設置等）	10 件
・関連施設との連携・融合（ソフト面）	6 件
・速度・構造等への要望	32 件
・期待している	19 件



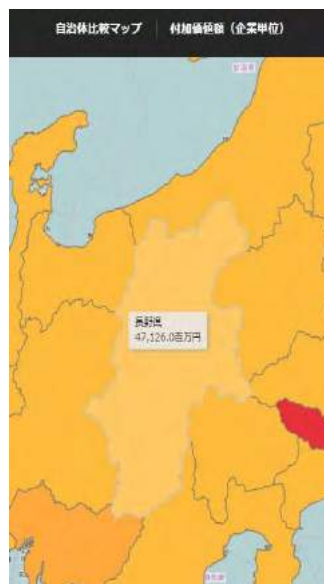
（考察）

全体を通して、「サイクリングロードの設営に関する要望」や「環境や安全面に対する不安」があることがわかります。また、自転車で諏訪湖一周できることの期待感も多く、その中でどのようにしたら快適に走ることができるのかを考えているのだと思われます。

多くの方々が今回の計画の完成を待ち望んでいることをうかがい知ることができる結果だと思われます。

長野県諏訪地域経済を 観光地周遊バスで元気にする

観光地までと観光地間の交通手段を転換



2015年12月13日

株式会社ビジネスクロス
代表 中小企業診断士 宮崎博孝

長野県諏訪チーム

中小企業診断士フォーラム会員
中小企業診断士 木内清人
中小企業診断士 濱 秀典
中小企業診断士 下地貴之



COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

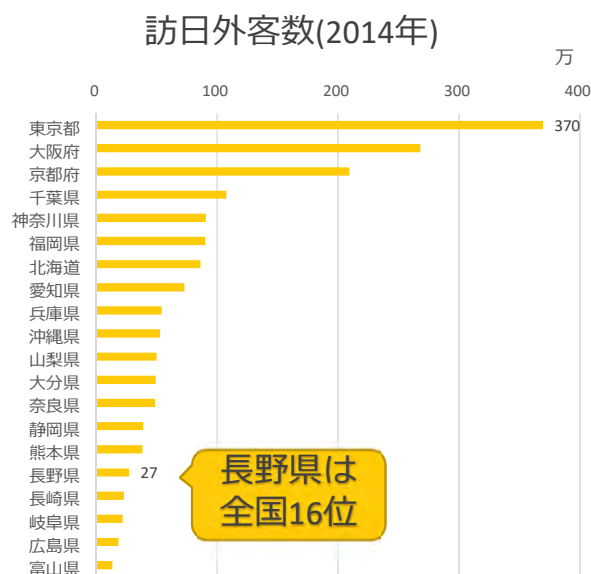
※1) この資料は、内閣府 地方創生推進事務局が主催した「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」において優秀賞となった作品です。著者は株式会社ビジネスクロス（代表取締役宮崎博孝）様です。ここでは、諏訪圏域の観光について交通の観点から、地域経済分析システム（RESA）を活用し、現状と課題の整理と解決するための政策アイデアをまとめたものです。

今回の諏訪湖周自転車活用推進計画の策定において、課題や政策の提案に共通点が多いことから、著者の承諾のもと一部を割愛させていただき、ここに原文のまま掲載します。

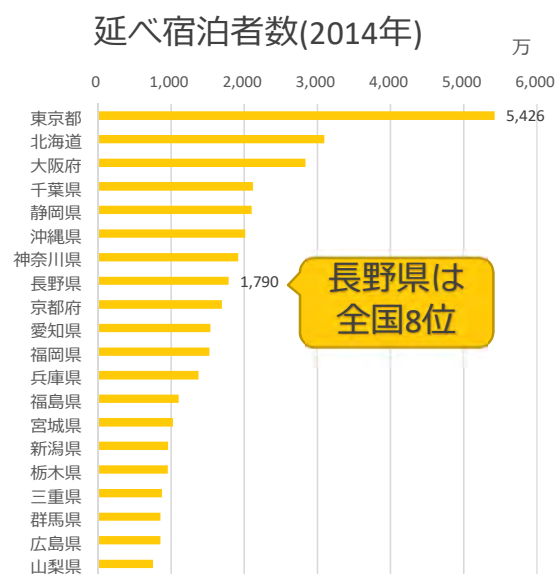
※1) 長野県諏訪地域経済を観光地周遊バスで元気にする——観光地までと観光地間の交通手段を転換——
(<https://contest.resas-portal.go.jp/2016/pdf/presen/biz-x.pdf>)

2014年に長野県を観光・レジャー目的で訪れた外国人は約27万人である。都道府県別では、第1位が東京都の約370万人で、長野県が第16位である。

日本人を含み、観光レジャー目的以外を含む延べ宿泊者数が全国8位であるのに対して、観光・レジャー目的で長野県を訪れる外国人は他の都道府県に比べて少ない。



出典：RE S A Sの観光マップ外国人訪問分析を加工



出典：宿泊旅行統計調査平成26年（観光庁）

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

諏訪地域の観光客動向（１）

5

2014(平成26)年に長野県を訪れた観光旅行者8,418万人のうち、諏訪地域*1を15.4%の1,292万人が訪れている。また観光消費額は長野県全体の2,974億円のうち、諏訪地域が12.2%の361億円を占めている。諏訪地域を訪れた観光旅行者のうち22.2%が宿泊しているが、長野県全体に比べると11.5%低い。また県外から諏訪地域を訪れる観光旅行者は74.8%と、長野県全体に比べると9.9%高い。

長野県全体に比べて諏訪地域は、県外から日帰りで訪れる観光旅行者が多い。

*1 諏訪地域は、岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村の観光地。

	長野県全体	諏訪地域	比率
観光旅行者数	8,418万人	1,292万人	15.4%
観光消費額	2,974億円	361億円	12.2%
宿泊客数	33.7%	22.2%	—
日帰り客数	66.3%	77.8%	—
県外からの客数	64.9%	74.8%	—
県内から客数	35.1%	25.2%	—

出典：平成26年度 観光地利用者統計調査結果(長野県 観光部 山岳高原観光課)

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

諏訪地域には長野県内第3位の年間388万人(2014年)が訪れる上諏訪温泉・諏訪湖をはじめ、5位の霧ヶ峰高原、7位の白樺湖、11位の蓼科、13位の諏訪大社がある。

1999(平成11)年の利用者数を100とした場合の2014(平成26)年の指数が長野県全体では88.0に対して、諏訪地域は84.9と総じて下回っている。特に白樺湖64.1、諏訪大社62.6と低くなっている。

諏訪地域を訪れる観光旅行客数は減少しており、特に白樺湖、諏訪大社の減少が大きい。

観光地	市町村	県内順位	利用者数	増減*1
上諏訪温泉・諏訪湖	諏訪市	3位	388万人	96.3
霧ヶ峰高原	諏訪市	5位	230万人	128.9
白樺湖	茅野市・立科町	7位	195万人	64.1
蓼科	茅野市	11位	143万人	74.6
諏訪大社	諏訪市・下諏訪町	15位	111万人	62.6
諏訪地域	—	—	1,292万人	84.9
長野県全域	—	—	8,418万人	88.0

*1 1999(平成11)年の利用者数を100とした場合の利用者数の指数

出典：平成26年度 観光地利用者統計調査結果(長野県 観光部 山岳高原観光課)

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

諏訪地域の観光

観光地は、諏訪湖畔の諏訪市、下諏訪町、岡谷市と、その周辺の霧ヶ峰、白樺湖、車山、蓼科などの高原に点在している。

諏訪までの交通手段は、観光バスが62.2%と最も多く、自家用車32.4%、在来線2.8%となっている。長野県全体では自家用車52.3%、観光バス36.4%、新幹線4.5%、在来線2.8%となっている。諏訪地域は観光バスを利用する観光客が多い。（※1）

また同行者数は長野県全体の4.66人の比べて7.01人と団体旅行者が多い。（※1）

諏訪を訪れるバスツアーは県内や県外の複数の観光地を巡るツアーが多く、観光客が1つの観光地を中心として自由に巡るツアーは少ない。

例：善光寺と諏訪大社を参拝する。岐阜県白川郷の帰りに諏訪に寄りいちご狩り。



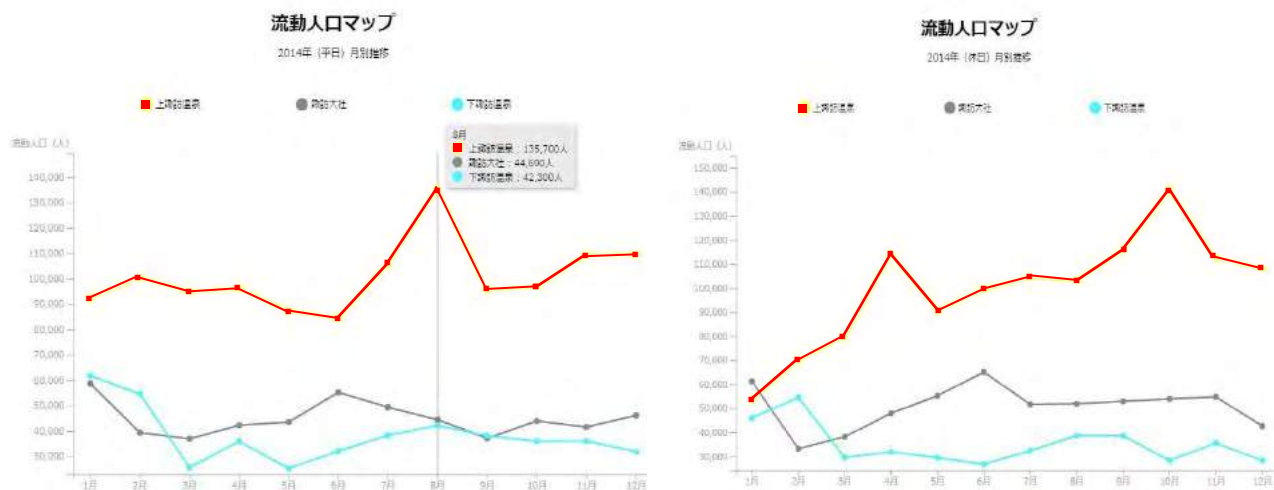
出典：長野県茅野市観光サイト

※1 統計から見る長野県観光の現況 平成25年9月（長野県観光部観光企画課）観測地点 諏訪大社上社

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

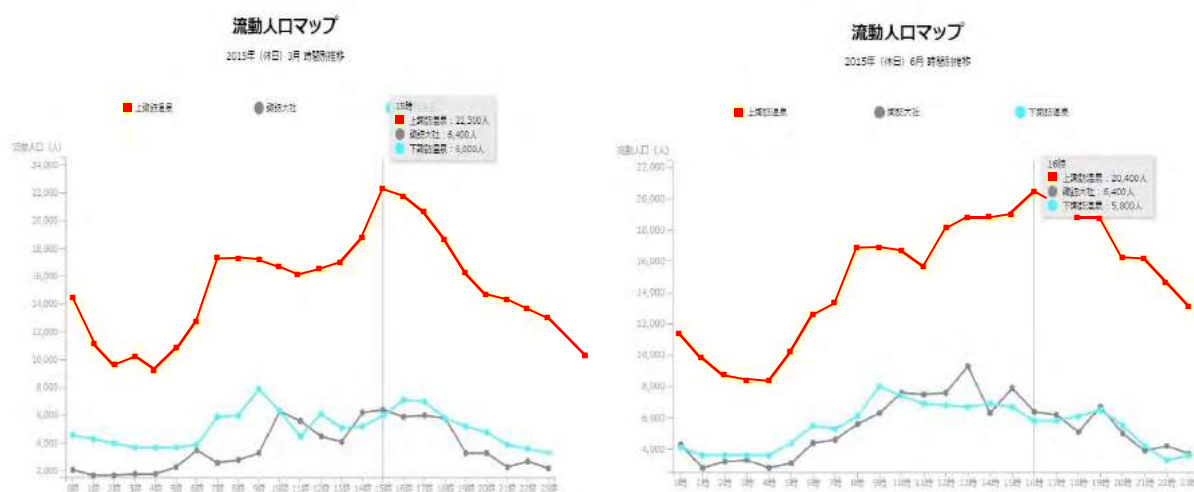
諏訪湖畔の観光地３か所、諏訪湖・上諏訪周辺、諏訪大社上社周辺、下諏訪周辺の月別の滞在人口を比較すると、平日、休日に関わらず年間を通じて諏訪湖・上諏訪周辺が多く、諏訪大社上社周辺、下諏訪周辺が少ないことが分かる。

特定の観光地を訪れた後、周辺の観光地に立ち寄らずに他の地域に向かっている可能性が高いことが推測される。



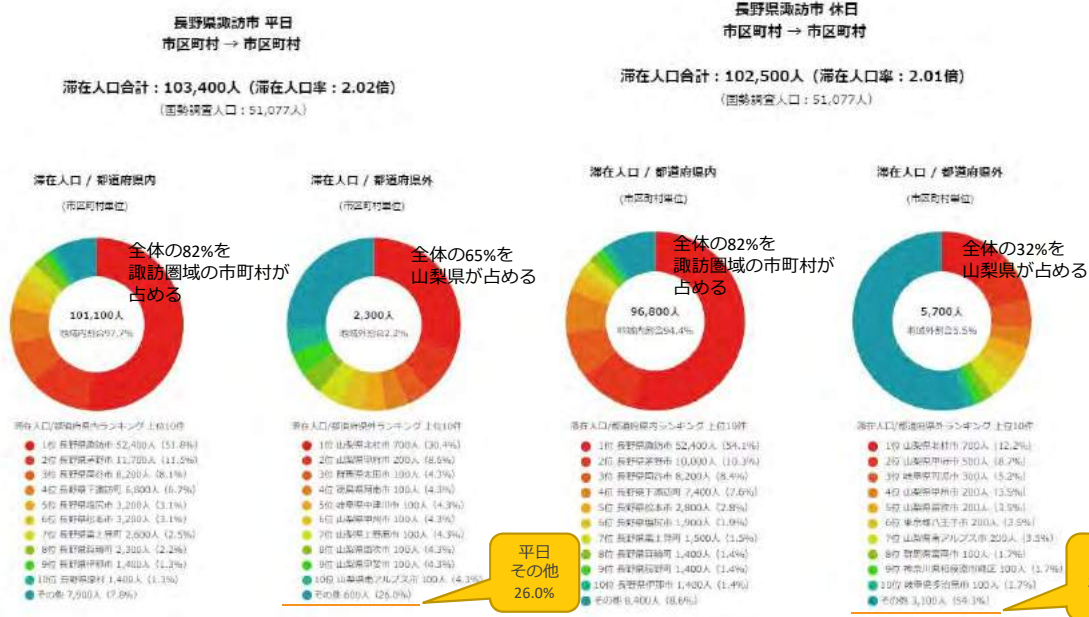
COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

また諏訪湖畔の観光地３か所、諏訪湖・上諏訪周辺、諏訪大社上社周辺、下諏訪周辺の休日の時間帯別の滞在人口を比較すると、宿泊施設が集中する諏訪湖・上諏訪周辺に夕方になる傾向がみられる。それ以外は一つの地点の増減に比例して他の地点が増減するなどの関係性は読み取れない。



COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

諏訪市の滞在人口合計は平日が103,400人で滞在人口率2.02倍、休日が102,500人で滞在人口率2.01倍で、平日も休日も周辺地域から国勢調査人口の約2倍の人が流入している。うち県外は平日が2.2%に対して、休日は5.5%で、休日の方が県外からの流入が多い。流入元が県内の上位10市町村は、平日でも休日でも人数、比率とも大きな違いがない。一方で県外の上位10市町村以外は、平日の600人(26.0%)に比べて休日が3,100人(54.3%)と人数で約5倍、比率で約2倍ありより広範囲の市町村から流入している。



COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

首都圏、中京圏、関西圏から諏訪に向かう交通機関はJ Rの特急と高速バスがあり、1日の便数も多く観光で十分に利用できる。

J Rの中央本線(中央東線)は、新宿から松本行きの特急が平日で1日19往復している。また中央本線(中央西線)は、名古屋から塩尻経由、松本・長野行きの特急が平日で1日17往復している。諏訪方面へは塩尻から中央本線(中央東線)の普通列車に乗り換える。各駅の1日の利用客数(定期外)は上諏訪駅が1,473人、茅野駅が1,400人、岡谷駅が1,127人、下諏訪駅が505人となっている。（※1）

高速バスは、新宿から茅野・岡谷経由、下諏訪行きが1日17往復、名古屋から岡谷経由松本・長野行きが1日10往復、大阪から茅野行きが1日1往復している(2015年11月時点)。

一方で諏訪地域の交通機関は、路線バス、各市町村が運営するコミュニティバスがあるが、運行本数が少なく観光で利用することは難しい。

路線バスは、岡谷から下諏訪・上諏訪を経由して茅野を結ぶ岡谷茅野線が平日のみで1日16往復、上諏訪から霧ヶ峰・白樺湖を経由して茅野を結ぶ上諏訪茅野線が平日で1日9往復、休日で1日4往復などがある。平日でも1時間に1本程度である。

コミュニティバスは運行が各市町村内に限定されている。諏訪市のコミュニティバス「かりんちゃん」は、市内を循環する内回りが1日7便、外回り1日6便で2時間に1本程度である。

また諏訪湖畔の岡谷市・下諏訪町・諏訪市を巡回するスワンバスが運行されている。内回り、外回りとも1日8便で2時間に1本程度である。

※1 駅別乗車人員2014年度 J R東日本ホームページ <https://www.jreast.co.jp/passenger/index.html>

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

長野県の宿泊業は全国7位と付加価値額が高い。しかし近年は観光客数の減少に伴って付加価値額が減少傾向にある。また延べ宿泊者数は全国8位に対して、外国人観光客数は全国16位と少なく、今後外国人観光客を積極的に集客する余地がある。一方でスキーや訪日教育旅行など目的が明確な外国人観光客に対しての取り組みに成功している。

諏訪地域には、利用客数が県内3位の上諏訪温泉・諏訪湖をはじめ、5位霧ヶ峰高原、7位白樺湖、11位蓼科、15位諏訪大社があり、長野県全体の15.4%、消費額で12.2%を占めている。近年は長野県全体と同様に観光客数が減少している。特に白樺湖、諏訪大社は他の観光地に比べて減少が激しい。

諏訪地域の観光地は、諏訪湖畔と、周辺の霧ヶ峰、白樺湖、車山、蓼科など高原に点在していて、県外からの日帰り観光バスツアーを利用する団体観光旅行客が多い。

滞在人口メッシュ分析からは、観光客が特定の観光地を訪れた後周辺の観光地に立ち寄っていないことが推測される。また滞在人口From-To分析からは、中央自動車道とJ R中央本線沿線の市町村から流入していることが分かる。

首都圏、中京圏、関西圏から諏訪に向かう交通機関はJ Rの特急と高速バスがあり、1日の便数も多く観光で十分に利用できる。しかしながら観光バスと自家用車の利用が合計約95%で、J R中央本線の利用は約3%に留まっている。また諏訪地域の交通機関には、路線バス、各市町村が運営するコミュニティバスがあるが、運行本数が少なく観光で利用することは難しい。

今後観光客を増やし地域を活性化するためには、早急に**諏訪地域の観光地を結ぶ利便性の高い交通機関を整備することが課題**である。

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

課題に対する提案（1）

16

観光客の長距離移動（観光地まで）と短距離移動（観光地）の交通手段を変えることによって、観光客の利便性を向上して観光客を増やし、合わせて地域の活性化を図る。

- ・ 宿泊施設の送迎バス*1を利用した観光地を周遊する観光バスを運行する。
- ・ 観光客が持つGPS機能*2を活用した配車サービスを提供する。
- ・ 自家用車、観光バスの利用者向けに乗換拠点となる駐車場を整備する。
- ・ 観光客の荷物を目的地*3に届ける手荷物配送サービスを合わせて提供する。



*1 市町村などが運営しない場合は道路交通法に規定される「違法な白バスの運行」にあたるため、戦略特区の指定など規制緩和が必要。

*2 スマートフォンに装備されているGPS機能を利用する。

*3 宿泊施設、J Rの駅、高速バスの停留場など、自宅を除く場所。

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

宿泊施設の送迎バスを利用した観光地を周遊する観光バスを運行する。

拠点となるＪＲの駅、高速バスの停留所、自家用車の乗換拠点と、各観光地間を周遊するルートで10人乗り程度のバスを複数台運行する。地域住民の利用も可能とする。

複数の観光地で乗り降り自由として料金も1日単位の定額とする。

昼間の時間帯の空いている宿泊施設の送迎バスを有効活用する。

近距離の利便性が高い移動手段を提供することで、遠隔地から長距離移動する観光客の来訪を促す。また車を利用できない外国人居住者や訪日外国人の来訪を促す。

観光客だけでなく地域住民が利用することで利用者を増やしつつ、観光客との交流の場を作る。地域住民は1か月もしくは年間の定額とすることで収益基盤を確保する。

観光客が持つGPS機能を活用した配車サービスを提供する。

利用者は乗車10分前迄にスマホなどで配車センターに予約する。予約時確認する人数と乗降場所に応じて観光地点に効率的にバスを配車する。

バスは主な観光地点を基本的に20分毎に出発することで、利用者の待ち時間を少なくする。また早く目的地に到着しても出発時間まで停車したまま待つことで、出発時間までのチョットした買い物や予定外の立ち寄り観光を促す。

RESASシステムの滞在人口メッシュ分析を日別の需要予測に利用することで人員配車計画に反映する。また日々は予約状況と観光客のGPS機能によりリアルタイムに観光客数、場所を判断して効率的に配車する。

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

収支見込の試算

18

1日乗り降り自由なフリーパスを1,000円で発行する。宿泊施設の送迎バス10台を運行する場合、1日180人以上が利用すれば利益が出る。

1) 収入

経路	1日の利用者数	摘要
ＪＲ	130人	4,505人/日の2.8%*1
高速バス	20人	
自家用車他	30人	
計	180人	1,000円×180=18万円*2

*1 上諏訪駅、茅野駅、岡谷駅、下諏訪駅の4駅の乗降客数

*2 地域住民の利用分は含んでいない

1日180人目標

料金:1日1,000円



送迎バス10台

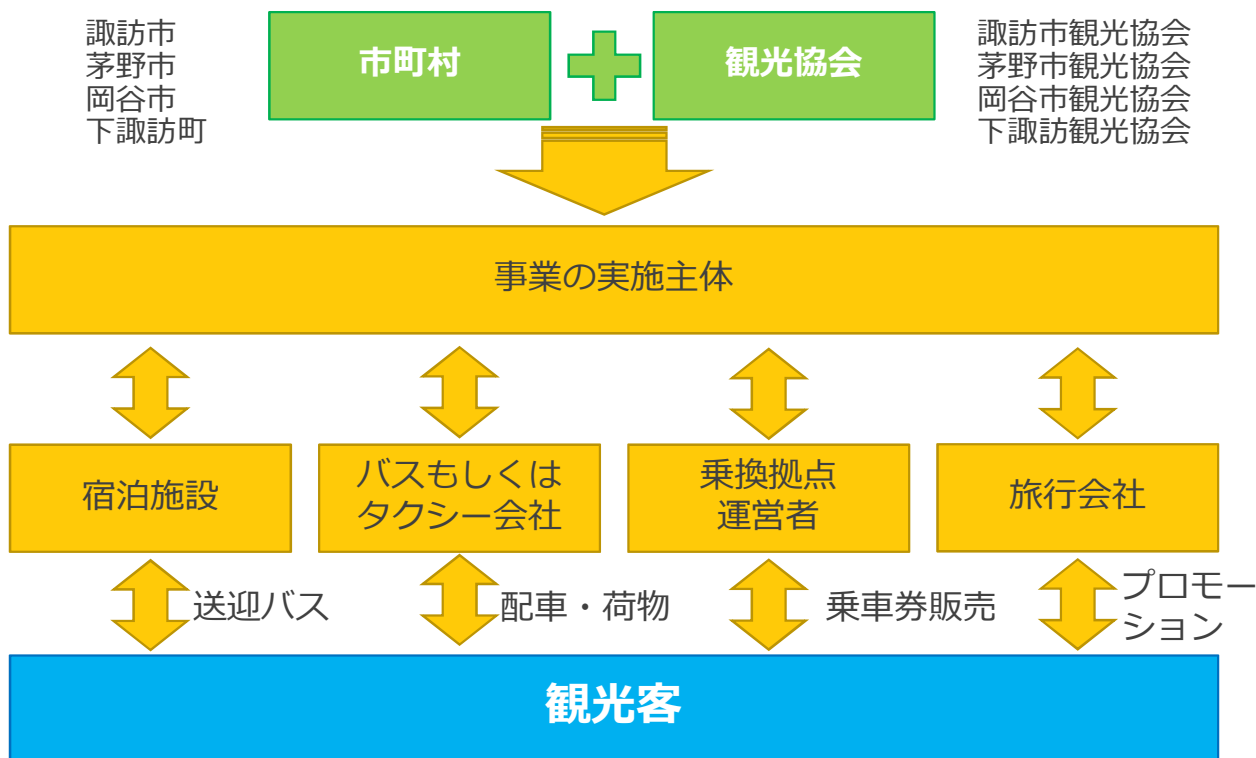
2) 支出

品目	月額	摘要
ガソリン代	36万円	10台×(40km/日÷5km/ℓ)×150円/ℓ×30日
人件費	450万円	10人×1,500円/時間×10時間×30日
システム利用料	10万円	配車システム*3
その他	54万円	
計	540万円	540万円÷30日=18万円/日

*3 タクシー会社との連携によりタクシー会社が持つ配車システムを活用

COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

諏訪地域全体で市町村を超えた観光関連業者の連携による運営体制を整える。



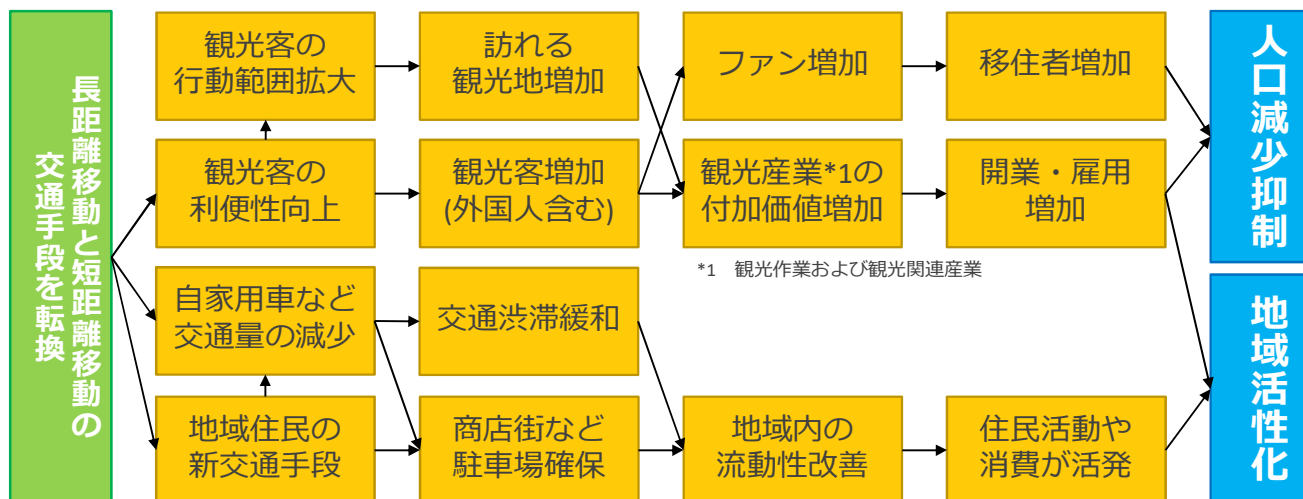
COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

提案のまとめ

20

観光客の利便性が向上して行動範囲が広がることで観光客が1回に訪れる観光地が増える。また外国人を含む観光客が増加する。一部の観光客は地域住民との交流を通して親しみを持ち地域のファンとなり移住が増加する。合わせて観光産業および関連産業の付加価値額が増加し、開業・雇用が増加することにより人口減少抑制を図る。

訪れる観光地が増加することや観光客の増加に伴って、観光産業および関連産業の付加価値額が増加する。さらに同産業の開業や雇用が増える。一方観光客が利用する自家用車や大型観光バスの通行量が減ることで、地域内の交通渋滞が緩和する。また地域住民の新たな交通手段ができ、商店街周辺の駐車場不足が解消する。これらによって地域内の流動性が改善して住民の活動や消費が活発になることにより地域活性化を図る。



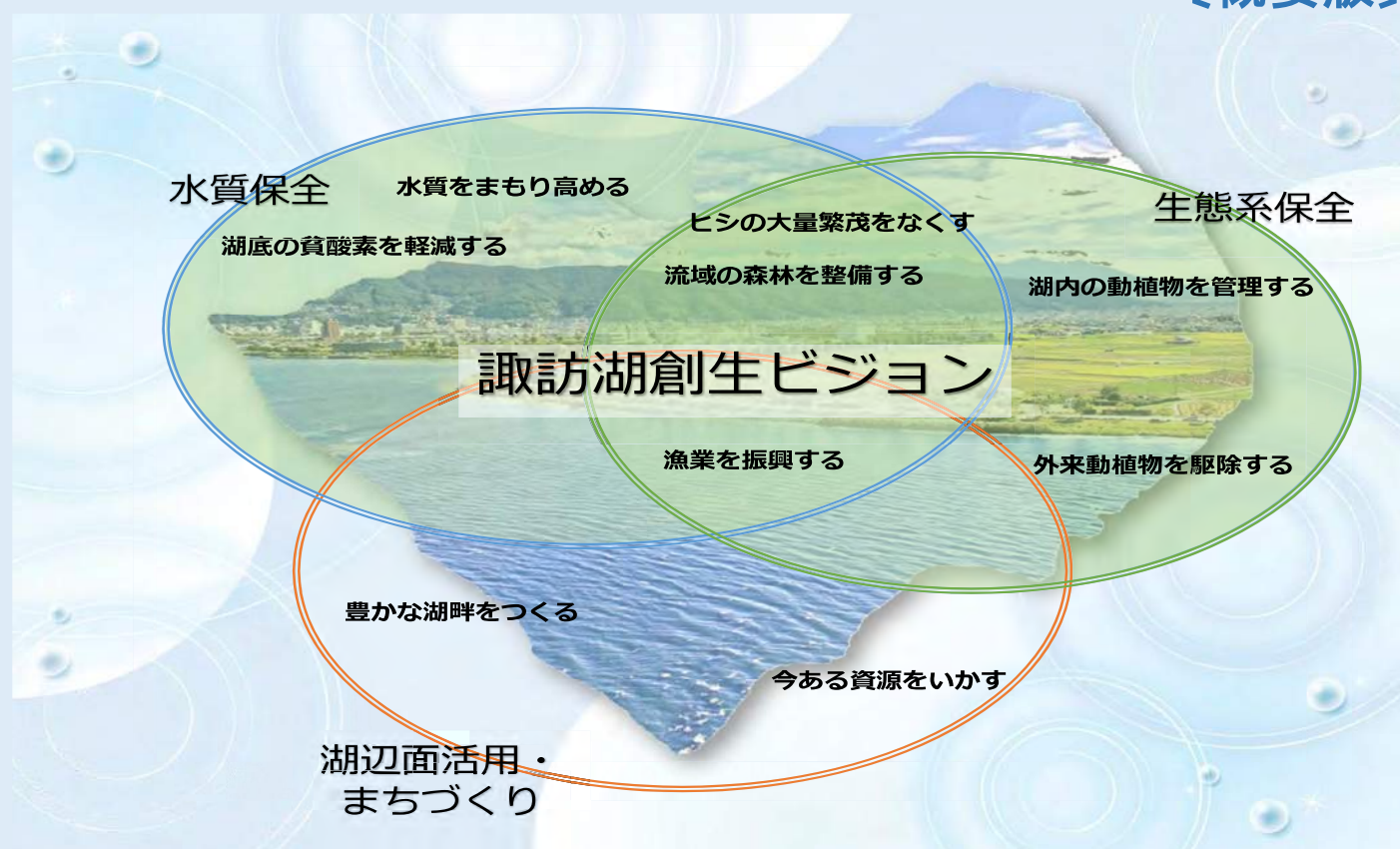
COPYRIGHT © 2015 株式会社ビジネスクロス 長野県諏訪チーム

Ⅱ．諏訪湖創生ビジョン概要版

諏訪湖創生ビジョン

『人と生き物が共存し、誰もが訪れたくなる諏訪湖』の実現に向けて

〔概要版〕



2018年(平成30年)3月策定

1 ビジョンの位置付け等

- 諏訪湖の水環境保全（水質、水量、生態系等）を統合的に推進し、“諏訪湖を活かしたまちづくり”と一体的に進め、「泳ぎたくなる諏訪湖」「シジミが採れる諏訪湖」「誰もが訪れたくなる諏訪湖」を実現するための道筋を示すもの
- 県、市町村、地域住民、企業等が協働し、地域一体となって諏訪湖を創生するための拠りどころ
- 諏訪湖に関わる各種計画（諏訪湖水質保全計画、諏訪湖水辺整備基本計画など）を取り込む
- 水循環基本法の水循環基本計画に基づく流域水循環計画として位置付け
- 諏訪湖を中心としたSDGsの具体化（「水環境保全＝環境」「漁業・観光振興＝経済」「学び・まちづくり＝社会」）に統合的に取り組む



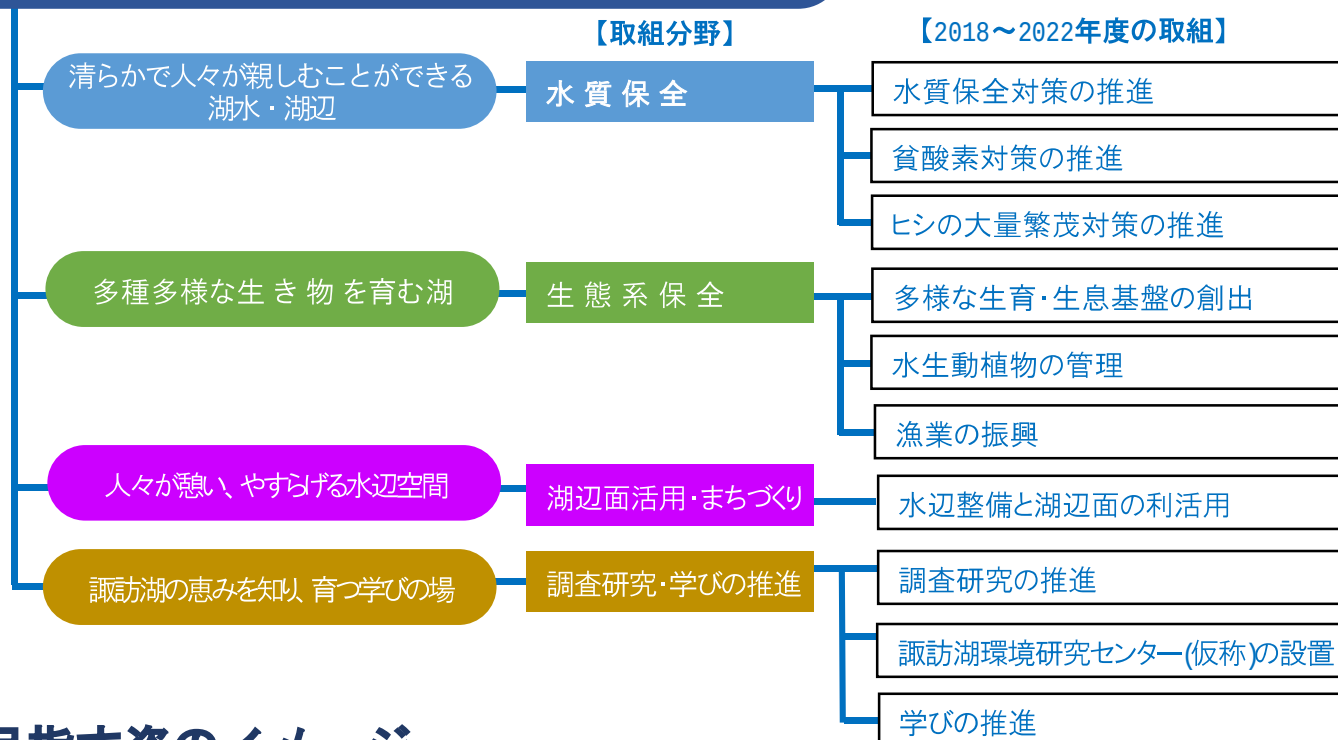
※SDGs（持続可能な開発目標）とは、経済・社会・環境の課題を統合的に解決することを目指す国際社会共通の目標です。
※SDGs達成に向け政府が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（2016年12月）においては、地方自治体の各種計画にSDGsの要素を最大限反映することが奨励されています。

- 計画期間は、2018年度（平成30年度）を初年度とし、概ね20年後（2038年）の諏訪湖のあるべき姿を念頭に、5年ごとに施策を見直す

2 ビジョンの体系

長期ビジョン（20年後の目指す姿）

人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖



目指す姿のイメージ

- 水質が改善され、澄んで透明感がある湖水には、魚や水草の姿を見ることができる。
- 貧酸素が改善され、エゴ（入り江）や砂浜など変化に富んだ環境には多種多様な生き物が育まれている。
- 豊かな漁場環境が再生され、ワカサギやシジミなどの二枚貝やタニシなどの漁業資源が持続的に利用されている。
- 水面や湖辺にゴミがなく、美しい景観が保たれている。
- 湖畔が、治水、親水、レクリエーション利用、景観、生態系等湖辺の特性に応じた整備がされ、それぞれの場所が魅力ある場所となっている
- 湖を眺めながらカフェなどでゆったりとした時間を楽しむ人たちが賑わっている。
- 湖上や流入河川では、ヨットやボート、カヌーなどを楽しみ、湖畔の砂浜では泳いでいる人々の姿がある。
- 湖畔に整備されたサイクリングロードでは、人々が、健康づくり、又はスポーツとしてサイクリングを楽しんでいる姿がある。
- 観光客が美術館や博物館を周遊するなど、湖畔での散策や温泉などを楽しんでいる。
- 諏訪湖が国際的な湖沼研究の場となり、国内外から多くの研究者や見学者が訪れている。
- 諏訪地域をはじめ長野県内の多くの子どもたちや観光客が諏訪湖を訪れ、水環境保全や歴史・文化について学習している。